

# 調査結果の概要

## 発育状態

### 1 平均体格 (表1、図1、別表1参照)

平成16年度の小学校、中学校、高等学校及び幼稚園における児童、生徒、及び幼児の身長、体重及び座高の平均値を年齢別、男女別にみると次のとおりである。

#### (1) 各年齢間の体格差

##### 身長

男子は、12歳と13歳の間が8.9cmと最も大きく、16歳と17歳の間が0.4cmと最も小さい。女子は、9歳と10歳の間が7.0cmと最も大きく、14歳と15歳の間、16歳と17歳の間で0.3cmと最も小さい。

##### 体重

男子は、12歳と13歳の間が6.3kgと最も大きく、15歳と16歳の間が1.4kgと最も小さい。女子は、10歳と11歳の間が5.7kgと最も大きく、16歳と17歳の間が0.2kgと最も小さい。

##### 座高

男子は、12歳と13歳の間が4.5cmと最も大きく、16歳と17歳の間が0.7cmと最も小さい。女子は、10歳と11歳の間が3.5cmと最も大きく、15歳と16歳の間では16歳の方が0.1cm低くなっている。

表1 年齢別、男女別体格の平均値と男女差

区 分		身長 (cm)			体重 (kg)			座高 (cm)		
		男子	女子	差	男子	女子	差	男子	女子	差
幼稚園	5歳	110.8	110.1	0.7	18.8	18.5	0.3	62.0	61.5	0.5
小学校	6歳	117.0	116.0	1.0	21.7	21.2	0.5	65.3	64.6	0.7
	7歳	122.9	121.8	1.1	24.5	23.7	0.8	68.0	67.6	0.4
	8歳	128.6	127.8	0.8	27.7	27.2	0.5	70.6	70.4	0.2
	9歳	133.9	133.7	0.2	31.0	30.1	0.9	73.1	72.8	0.3
	10歳	138.8	140.7	1.9	34.8	34.6	0.2	75.1	76.2	1.1
中学校	11歳	145.5	147.6	2.1	39.1	40.3	1.2	78.1	79.7	1.6
	12歳	152.5	152.6	0.1	44.6	45.0	0.4	81.5	82.8	1.3
	13歳	161.4	156.0	5.4	50.9	48.0	2.9	86.0	84.3	1.7
高等学校	14歳	166.2	157.6	8.6	55.8	50.8	5.0	88.6	85.4	3.2
	15歳	169.8	157.9	11.9	61.4	52.8	8.6	90.7	85.9	4.8
	16歳	171.2	158.3	12.9	62.8	53.6	9.2	91.6	85.8	5.8
	17歳	171.6	158.6	13.0	64.9	53.8	11.1	92.3	85.8	6.5

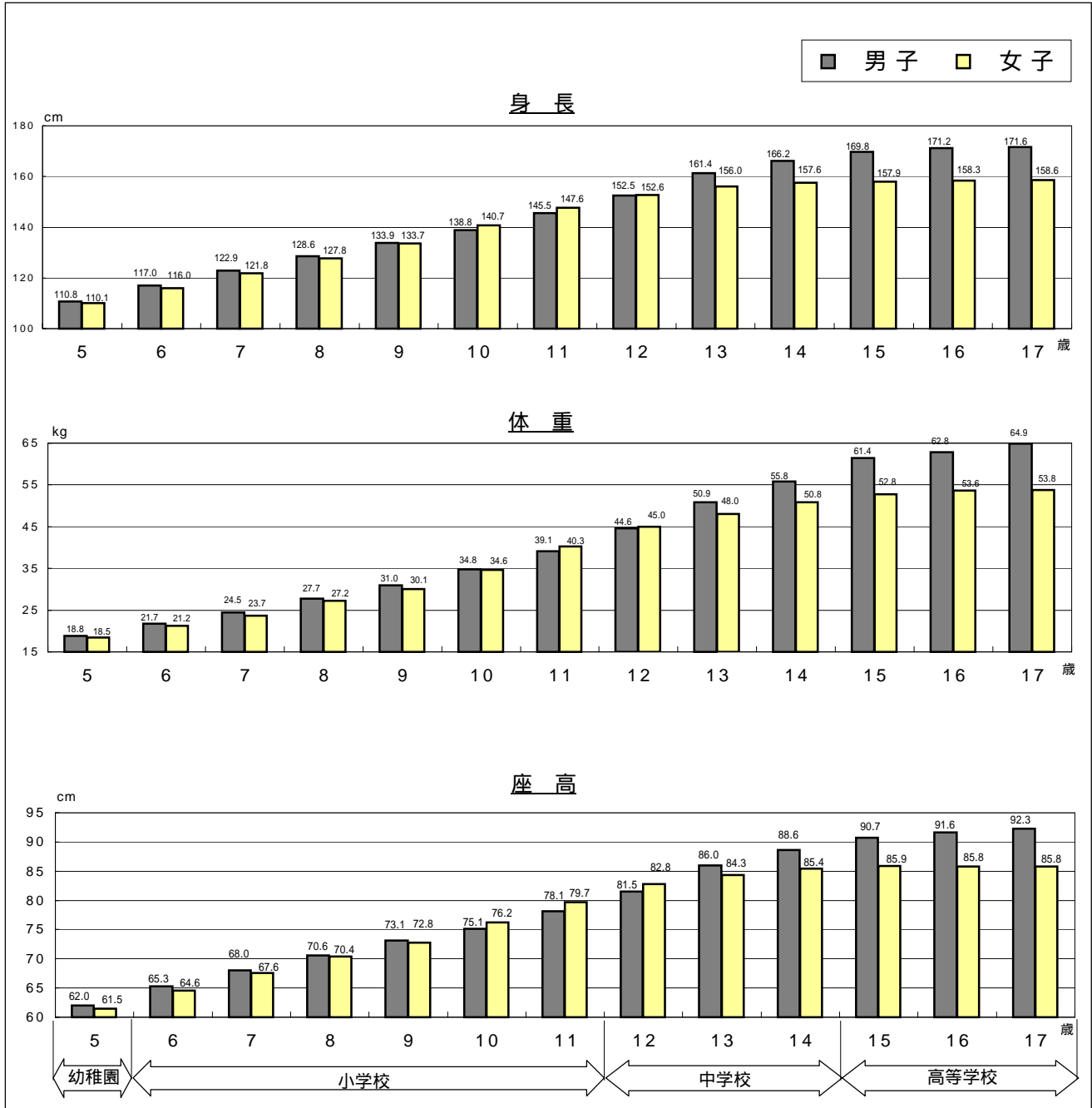
(注)1 「差」は、男子の数値から女子の数値を差し引いたものである。

(注)2 網掛の部分は調査実施以来最高を示す。

## (2) 男女の体格差

女子が男子を上回る発育年齢は、身長では10、11、12歳、体重では11、12歳、座高では10、11、12歳で、その差の最大は、身長では11歳の2.1cm、体重では11歳の1.2kg、座高では11歳の1.6cmとなっている。この時期を過ぎると男子が女子を上回り、17歳での差は、身長13.0cm、体重11.1kg、座高6.5cmとなっている。

図1 男女別、年齢別平均体格



## 2 30年前の昭和49年度の体格との比較 (表2、別表2参照)

平成16年度と30年前の昭和49年度の体格を比較してみると、男女5歳の座高を除き、身長、体重、座高すべてにおいて向上している。

### (1) 17歳(高校3年生)の体格の比較

17歳の体格を比較すると、30年前に比べて男子は身長が2.7cm高く、体重が5.1kg多く、座高が1.8cm高くなっている。女子は身長が1.7cm高く、体重が0.7kg多く、座高が1.1cm高くなっている。

### (2) 体格差の最も大きい年齢

30年前と比べ最も差の大きい年齢は、男子は身長13歳、体重15歳、座高13歳となっている。女子は身長11歳、体重11歳、座高11・12・15歳となっている。

表2 30年前の体格との比較

区分	身長 (cm)			体重 (kg)			座高 (cm)				
	平成 16年度	昭和 49年度	差	平成 16年度	昭和 49年度	差	平成 16年度	昭和 49年度	差		
男子	幼稚園	5歳	110.8	109.9	0.9	18.8	18.7	0.1	62.0	62.1	0.1
	小学校	6歳	117.0	115.6	1.4	21.7	20.8	0.9	65.3	65.0	0.3
		7歳	122.9	121.1	1.8	24.5	23.0	1.5	68.0	67.4	0.6
		8歳	128.6	126.6	2.0	27.7	25.9	1.8	70.6	70.0	0.6
		9歳	133.9	131.8	2.1	31.0	28.8	2.2	73.1	72.2	0.9
		10歳	138.8	136.7	2.1	34.8	31.8	3.0	75.1	74.3	0.8
		11歳	145.5	142.4	3.1	39.1	35.6	3.5	78.1	76.8	1.3
	中学校	12歳	152.5	149.3	3.2	44.6	40.3	4.3	81.5	79.9	1.6
		13歳	161.4	156.9	4.5	50.9	46.3	4.6	86.0	83.8	2.2
		14歳	166.2	163.0	3.2	55.8	51.8	4.0	88.6	86.8	1.8
	高等学校	15歳	169.8	166.4	3.4	61.4	55.8	5.6	90.7	88.9	1.8
		16歳	171.2	168.4	2.8	62.8	58.0	4.8	91.6	90.0	1.6
		17歳	171.6	168.9	2.7	64.9	59.8	5.1	92.3	90.5	1.8
	女子	幼稚園	5歳	110.1	109.2	0.9	18.5	18.4	0.1	61.5	61.5
小学校		6歳	116.0	114.9	1.1	21.2	20.3	0.9	64.6	64.4	0.2
		7歳	121.8	120.3	1.5	23.7	22.5	1.2	67.6	67.0	0.6
		8歳	127.8	126.5	1.3	27.2	25.5	1.7	70.4	70.0	0.4
		9歳	133.7	132.0	1.7	30.1	28.5	1.6	72.8	72.2	0.6
		10歳	140.7	138.7	2.0	34.6	32.6	2.0	76.2	75.3	0.9
		11歳	147.6	145.2	2.4	40.3	37.4	2.9	79.7	78.5	1.2
中学校		12歳	152.6	150.4	2.2	45.0	42.2	2.8	82.8	81.6	1.2
		13歳	156.0	153.8	2.2	48.0	46.4	1.6	84.3	83.3	1.0
		14歳	157.6	155.8	1.8	50.8	49.3	1.5	85.4	84.5	0.9
高等学校		15歳	157.9	156.4	1.5	52.8	51.5	1.3	85.9	84.7	1.2
		16歳	158.3	156.5	1.8	53.6	52.7	0.9	85.8	84.8	1.0
		17歳	158.6	156.9	1.7	53.8	53.1	0.7	85.8	84.7	1.1

### 3 30年前の発育量との比較 (表3、図2、別表5参照)

5歳から17歳まで12年間の総発育量と年間発育量の最も大きい年齢について、今年度調査の17歳(昭和61年度生まれ)と30年前調査の17歳(昭和31年度生まれ)を比較すると、次のとおりである。

#### (1) 総発育量の比較

今年度17歳の総発育量を30年前と比較すると、身長では男子0.2cm減、女子1.5cm減、体重では男子3.9kg増、女子0.8kg減、座高では男子1.3cm増、女子0.3cm増となっている。

#### (2) 年間発育量の最も大きい年齢

今年度17歳をみると、男子は身長は12歳時、体重は14歳時、座高は11歳時の年間発育量が最も大きく、女子は身長9歳時、体重11歳時、座高5・9・11歳時の年間発育量が最も大きい。

一方、30年前の17歳は、男子は身長は12・13歳時、体重は13歳時、座高は13歳時の年間発育量が最も大きく、女子は身長10歳時、体重11歳時、座高10歳時の年間発育量が最も大きい。

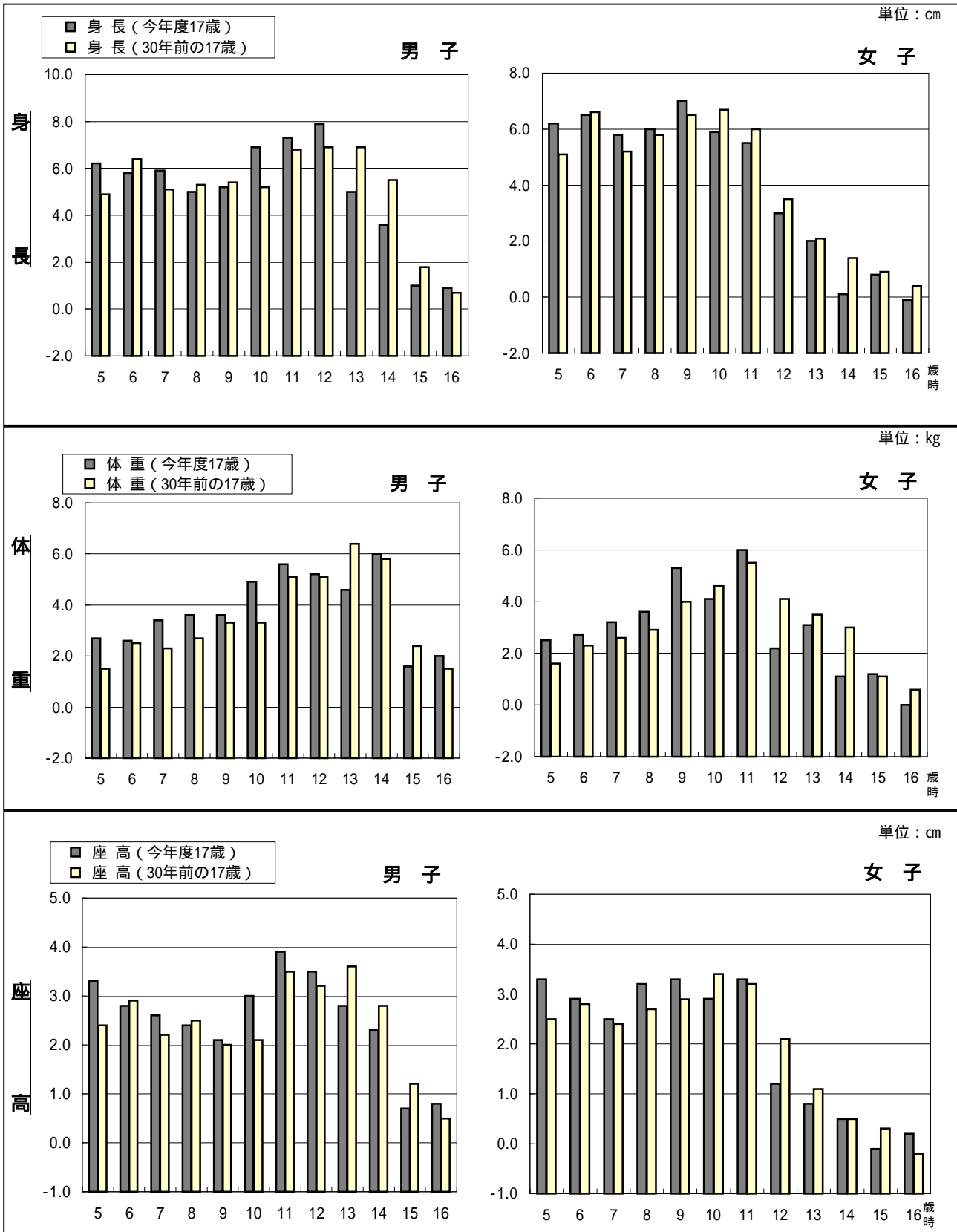
表3 年次別、男女別、発育量の比較

区 分	男 子				女 子				
	5歳時の体格	17歳時の体格	総発育量	年間発育量最大の年齢	5歳時の体格	17歳時の体格	総発育量	年間発育量最大の年齢	
身長 cm	昭和 31 年度生まれ	108.0	168.9	60.9	12・13歳時	106.7	156.9	50.2	10歳時
	41	110.0	171.0	61.0	12歳時	109.2	158.0	48.8	9歳時
	51	110.9	171.3	60.4	11歳時	110.2	158.3	48.1	9歳時
	56	110.9	172.1	61.2	12歳時	110.5	158.6	48.1	9歳時
	61	110.9	171.6	60.7	12歳時	109.9	158.6	48.7	9歳時
体 重 kg	昭和 31 年度生まれ	17.9	59.8	41.9	13歳時	17.3	53.1	35.8	11歳時
	41	18.7	62.1	43.4	13歳時	18.3	53.2	34.9	10歳時
	51	19.0	62.8	43.8	13歳時	18.7	53.5	34.8	11歳時
	56	19.2	63.5	44.3	12歳時	18.9	53.1	34.2	11歳時
	61	19.1	64.9	45.8	14歳時	18.8	53.8	35.0	11歳時
座 高 cm	昭和 31 年度生まれ	61.6	90.5	28.9	13歳時	61.0	84.7	23.7	10歳時
	41	62.3	91.5	29.2	12歳時	61.7	85.7	24.0	10歳時
	51	62.4	91.7	29.3	13歳時	62.0	86.0	24.0	10歳時
	56	62.7	92.2	29.5	12歳時	62.3	85.5	23.2	9歳時
	61	62.1	92.3	30.2	11歳時	61.8	85.8	24.0	5・9・11歳時

(注)1 総発育量とは、例えば31年度生まれの総発育量は、31年度生まれの「17歳時の体格」から「5歳時の体格」を引いたものである。

(注)2 出生年度については、例えば、「昭和31年度生まれ」とは、31年4月2日から翌年4月1日までに生まれた者をいう。

図2 年間発育量の30年前との比較



(注) 年間発育量とは、例えば、昭和61年度生まれの「5歳時」の年間発育量は、平成5年度調査6歳の者の体格から前年度調査5歳の者の体格を引いたものである。

## 健康状態

### 1 疾病・異常の被患率状況(表4、別表3参照)

平成16年度の定期健康診断における児童、生徒及び幼児の各疾病・異常の被患率は、男女とも「う歯の者(処置完了者 + 未処置歯のある者)」が各学校種とも第1位を占め、被患率も幼稚園が66.67%、小学校73.25%、中学校78.09%、高等学校78.29%と他に比較して圧倒的に高くなっている。

第2位は各学校種とも「裸眼視力1.0未満の者」で、被患率は幼稚園が23.22%、小学校28.57%、中学校53.26%、高等学校が71.29%となっている。

表4 主な疾病・異常被患率

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	区分	%	区分	%	区分	%	区分	%
1	う 歯	66.67	う 歯	73.25	う 歯	78.09	う 歯	78.29
2	裸眼視力1.0未満	23.22	裸眼視力1.0未満	28.57	裸眼視力1.0未満	53.26	裸眼視力1.0未満	71.29
3	鼻・副鼻腔疾患	1.65	その他の歯疾患	13.25	その他の歯疾患	9.01	その他の歯疾患	7.95
4	口腔咽喉疾患・異常	1.52	鼻・副鼻腔疾患	5.50	その他の眼疾患・異常	4.64	鼻・副鼻腔疾患	3.59
5	寄生虫卵保有	1.48	その他の眼疾患・異常	3.80	鼻・副鼻腔疾患	3.85	その他の疾病・異常	3.50

### 2 主な疾病・異常被患率の推移(別表3・4参照)

#### 肥満傾向

平成16年度の「肥満傾向」の者(学校医から肥満傾向と判定された者)の割合は、幼稚園が0.43%、小学校が1.18%、中学校が1.26%、高等学校が1.26%となっており、小学校、高等学校において前年度より減少している。

#### 鼻・副鼻腔疾患

平成16年度の「鼻・副鼻腔疾患」(蓄のう症、アレルギー性鼻炎等)の被患率は、幼稚園が1.65%、小学校が5.50%、中学校が3.85%、高等学校が3.59%となっており、小・中学校でにおいて前年度より減少している。

#### 寄生虫卵保有(幼稚園及び小学校のみ)

平成16年度の「寄生虫卵保有者」の割合は、幼稚園が1.48%、小学校が1.71%となっており、各学校種別において前年度より増加している。

#### 心電図異常(6歳、12歳及び15歳時のみ)

平成16年度の「心電図異常」の者の割合は、小学校が1.40%、中学校が3.46%、高等学校が2.50%となっており、中学校・高等学校において前年度より減少している。

#### ぜん息

平成16年度の「ぜん息」の被患率は、幼稚園が0.63%、小学校が1.56%、中学校が1.83%、高等学校が1.54%となっており、すべての各学校種別において前年度より増加している。

う 歯 (表5参照)

「う歯」の被患率について過去の推移をみると、すべての各学校種別において減少傾向にある。

10年前の平成7年度と比べると、幼稚園で10.46ポイント、小学校で14.63ポイント、中学校で12.75ポイント、高校で13.02ポイント減少している。

表5 う歯の処置完了状況等の推移

単位: %

区 分	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
幼稚園	計	77.13	75.01	79.86	69.62	60.71	69.96	66.51	59.09	59.49	66.67
	処置完了者	29.79	26.17	32.50	26.62	26.02	30.84	29.05	20.82	20.40	25.82
	未処置歯のある者	47.35	48.84	47.36	42.99	34.69	39.12	37.46	38.27	39.08	40.84
小学校	計	87.88	87.72	88.74	86.32	86.26	80.02	81.18	77.05	77.23	73.25
	処置完了者	36.58	36.47	35.58	36.93	39.14	34.16	36.84	33.20	35.15	32.64
	未処置歯のある者	51.30	51.24	53.16	49.39	47.11	45.85	44.34	43.84	42.08	40.60
中学校	計	90.84	90.50	88.15	88.83	84.25	81.30	82.04	78.27	74.61	78.09
	処置完了者	44.35	47.00	47.34	46.48	48.87	44.21	45.12	42.00	40.10	43.81
	未処置歯のある者	46.49	43.50	40.80	42.35	35.38	37.08	36.92	36.27	34.52	34.29
高等学校	計	91.31	95.02	93.59	89.12	91.88	88.08	88.40	85.93	83.15	78.29
	処置完了者	42.03	49.69	53.01	47.22	51.30	51.16	49.40	49.52	51.54	44.38
	未処置歯のある者	49.28	45.33	40.57	41.91	40.59	36.93	39.00	36.41	31.61	33.91

(注) 四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。

裸眼視力 (表6参照)

「裸眼視力1.0未満の者」の被患率についての過去の推移をみると、幼稚園・小学校・中学校・高等学校でそれぞれ増減を繰り返している。

また、平成16年度の被患率を前年度と比べると、幼稚園で13.51ポイント減少、小学校で0.75ポイント増加、中学校で0.80ポイント増加、高等学校で0.32ポイント減少している。

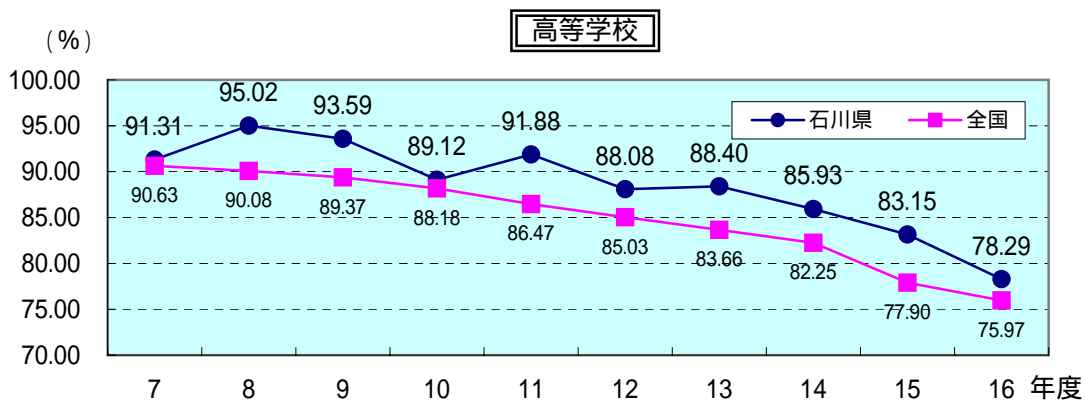
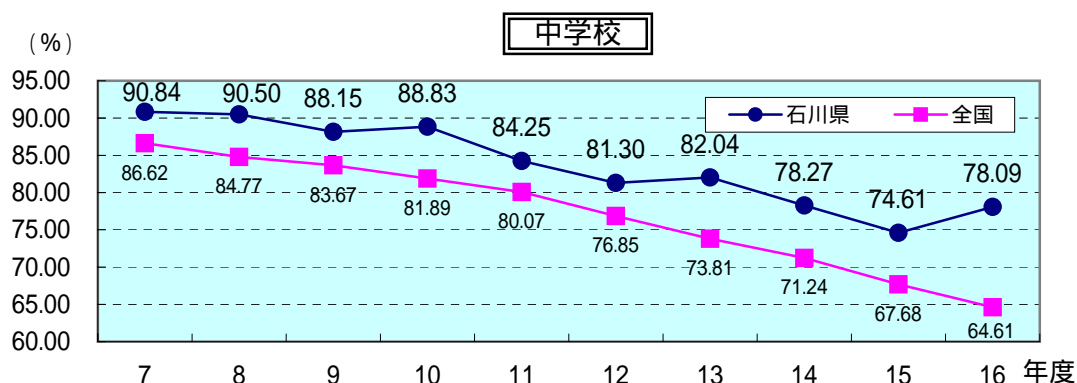
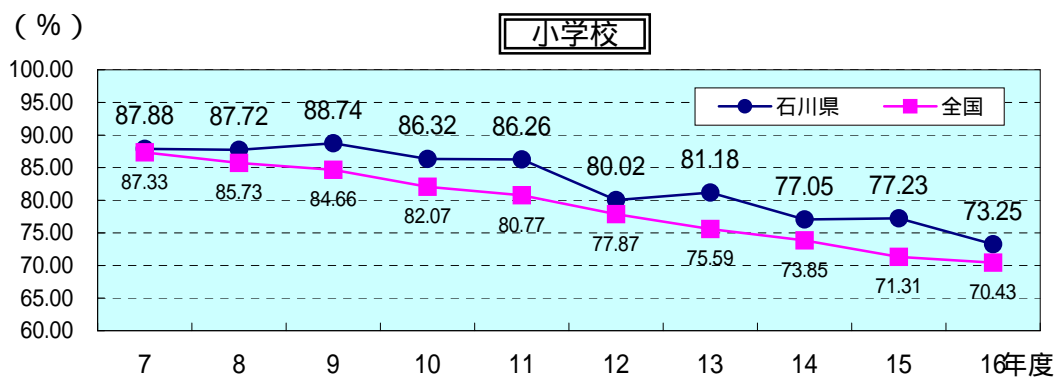
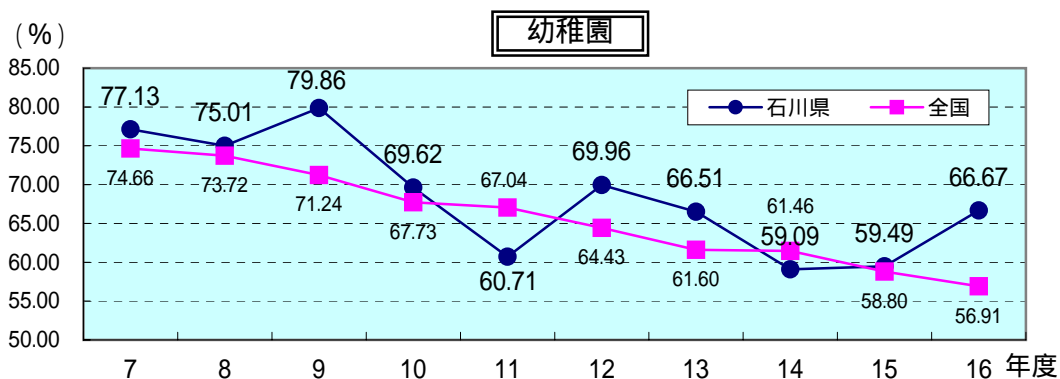
表6 裸眼視力1.0未満の者の推移

単位: %

区 分	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
幼稚園	計	20.54	27.67	5.06	9.96	7.63	47.97	15.56	25.32	36.73	23.22
	1.0未満0.7以上	13.54	24.20	3.26	6.67	5.64	31.20	11.66	15.62	24.40	14.66
	0.7未満0.3以上	6.73	3.02	1.80	2.97	1.90	15.33	3.65	8.58	12.33	7.91
	0.3未満	0.27	0.45	-	0.32	0.09	1.43	0.25	1.12	-	0.66
小学校	計	28.05	28.42	27.67	29.65	28.00	27.71	27.15	30.39	27.82	28.57
	1.0未満0.7以上	11.14	10.60	10.49	11.78	10.50	10.70	10.37	11.94	10.70	11.49
	0.7未満0.3以上	10.83	11.00	11.07	11.01	10.86	10.84	10.47	11.83	11.50	11.24
	0.3未満	6.08	6.81	6.11	6.86	6.65	6.17	6.31	6.62	5.62	5.84
中学校	計	50.31	56.53	55.30	57.83	53.01	58.36	55.65	55.40	52.46	53.26
	1.0未満0.7以上	9.93	12.38	11.05	10.77	9.32	11.36	11.13	9.83	10.22	9.75
	0.7未満0.3以上	17.52	17.76	18.66	18.30	18.75	20.32	20.87	17.49	19.37	16.91
	0.3未満	22.86	26.39	25.59	28.75	24.93	26.68	23.65	28.08	22.87	26.60
高等学校	計	65.99	75.02	60.70	68.63	71.46	74.26	75.29	74.96	71.61	71.29
	1.0未満0.7以上	11.27	14.19	9.60	10.39	9.56	10.04	8.31	8.96	9.67	8.90
	0.7未満0.3以上	15.43	18.95	16.53	15.85	15.03	15.18	14.48	13.79	16.30	13.74
	0.3未満	39.30	41.88	34.58	42.39	46.87	49.05	52.50	52.20	45.63	48.64

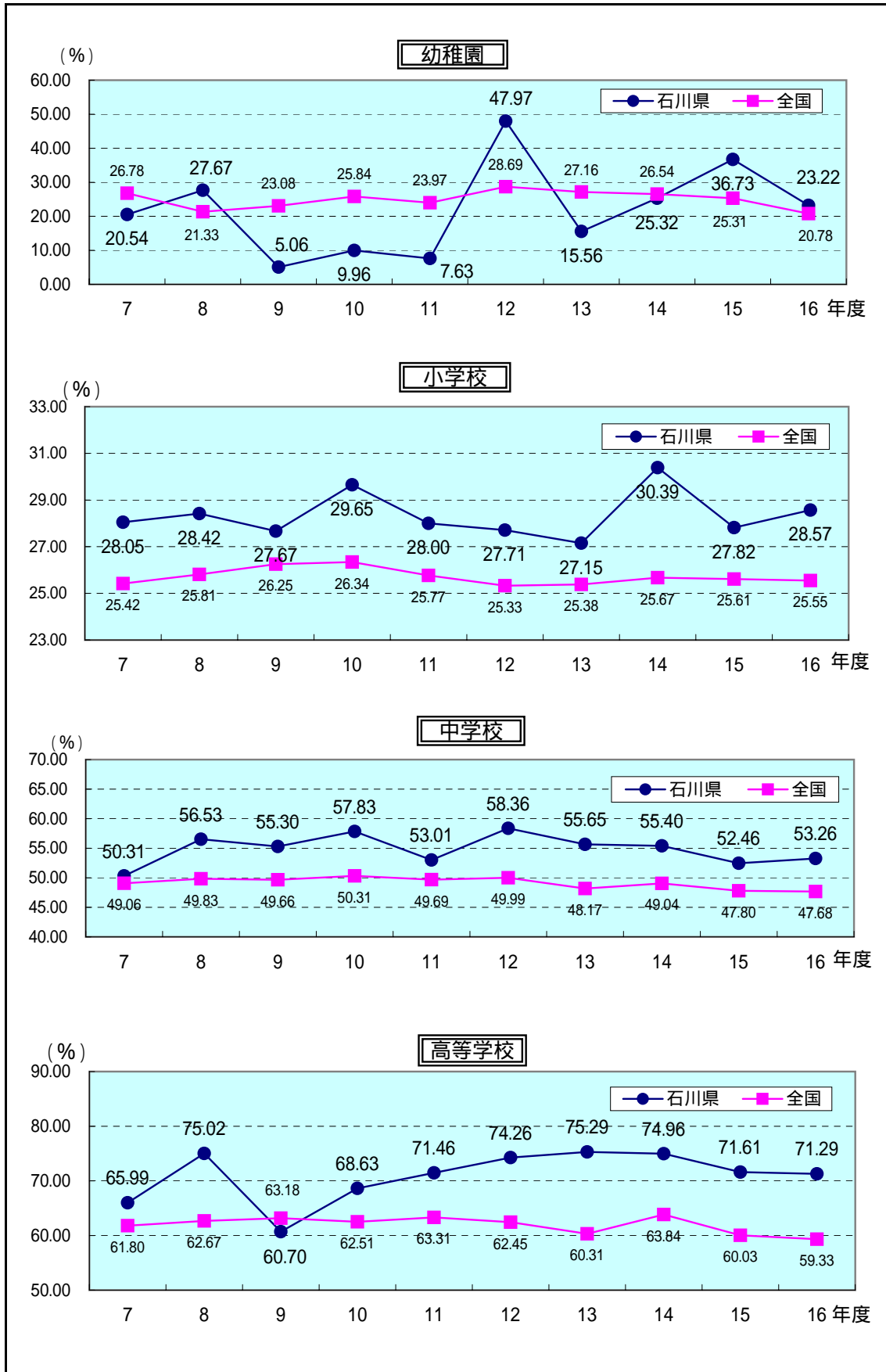
(注) 四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。

## う歯の被患率の推移





### 裸眼視力1.0未満の者の推移



# 全国値との比較

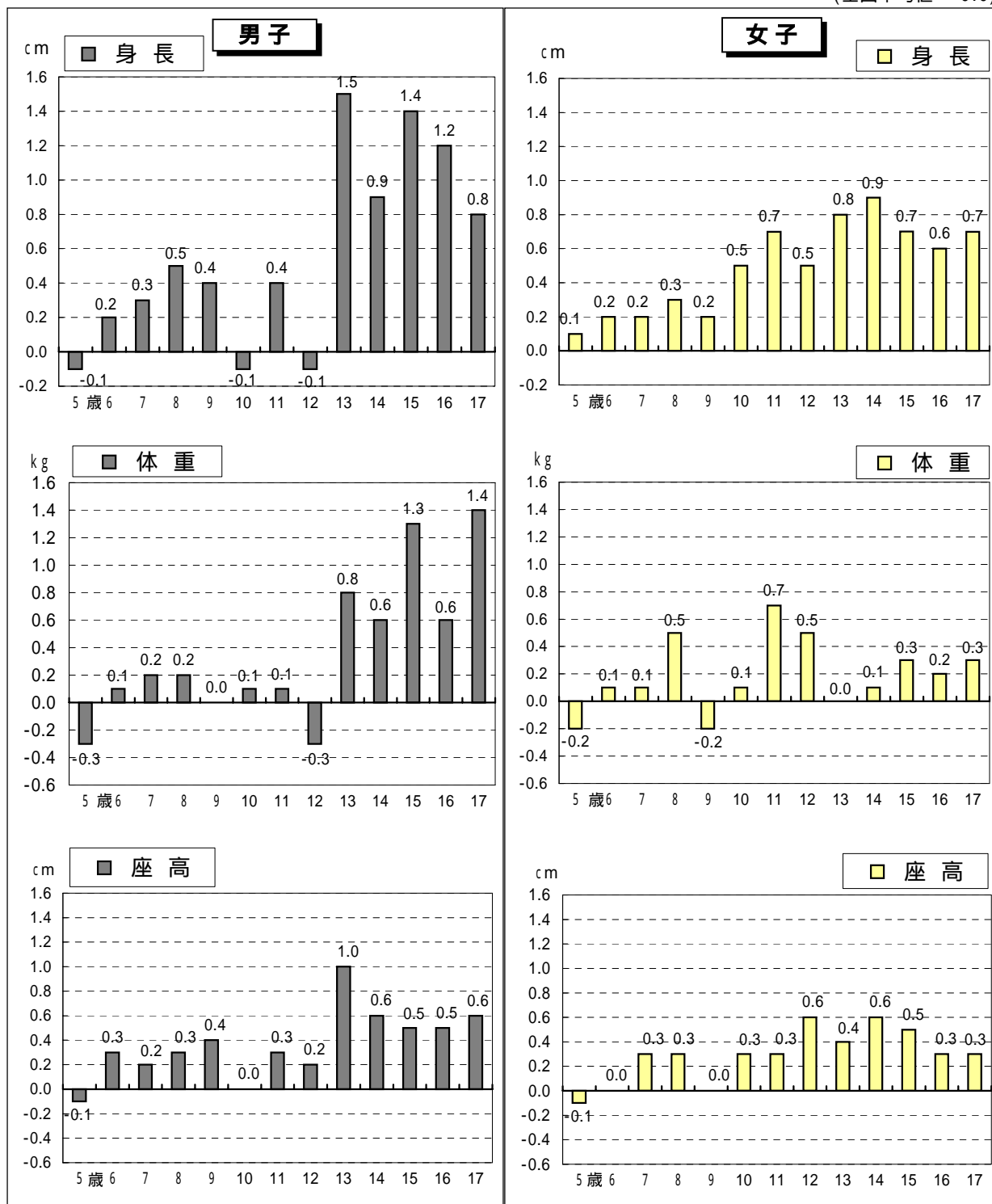
## 1 発育状態

### (1) 全国平均体格との差 (図3、別表1参照)

身長では、男子が5、10、12歳を除く全年齢、女子は全年齢で全国平均値を上回っている。体重では、男子が5、12歳を除く全年齢で、女子が5、9歳を除く全年齢で全国平均値を上回っている。座高では、男女とも5歳を除く全年齢で全国平均値を上回っている。

図3 男女別、年齢別体格の全国平均値との差

(全国平均値 = 0.0)



(2) 総発育量の全国平均値との比較 (表7参照)

17歳の総発育量を比較すると、男子は身長0.7cm、体重1.6kg、座高は1.0cm全国平均値を上回っている。女子は身長0.7cm、体重0.5kg、座高は0.5cm全国平均値を上回っている。

表7 男女別、総発育量の全国平均値との比較

区分	男子			女子			
	平成4年度 5歳時の体格	平成16年度 17歳時の体格	総発育量	平成4年度 5歳時の体格	平成16年度 17歳時の体格	総発育量	
身長 cm	石川県	110.9	171.6	60.7	109.9	158.6	48.7
	全国	110.8	170.8	60.0	109.9	157.9	48.0
体重 kg	石川県	19.1	64.9	45.8	18.8	53.8	35.0
	全国	19.3	63.5	44.2	19.0	53.5	34.5
座高 cm	石川県	62.1	92.3	30.2	61.8	85.8	24.0
	全国	62.5	91.7	29.2	62.0	85.5	23.5

(3) 17歳の身長の全国平均値との比較 (図6、図7参照)

17歳の身長を全国値と比較すると、石川県は男女ともに全国平均値を上回っている。また、北海道から近畿地方は全国平均値を上回る場所が多く、中国、四国及び九州地方は下回る場所が多い傾向がある。

2 健康状態

主な疾病・異常被患率の全国平均値との比較(図4・5、別表3参照)

「う歯」の被患率では、幼稚園が9.76ポイント、小学校が2.82ポイント、中学校が13.48ポイント、高等学校が2.32ポイント全国平均値を上回っている。

「裸眼視力1.0未満の者」の被患率では、幼稚園が2.44ポイント、小学校が3.02ポイント、中学校が5.58ポイント、高等学校が11.96ポイント全国平均値を上回っている。

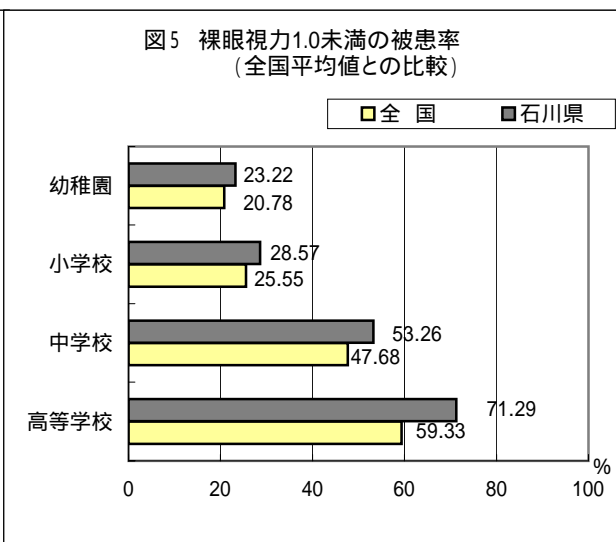
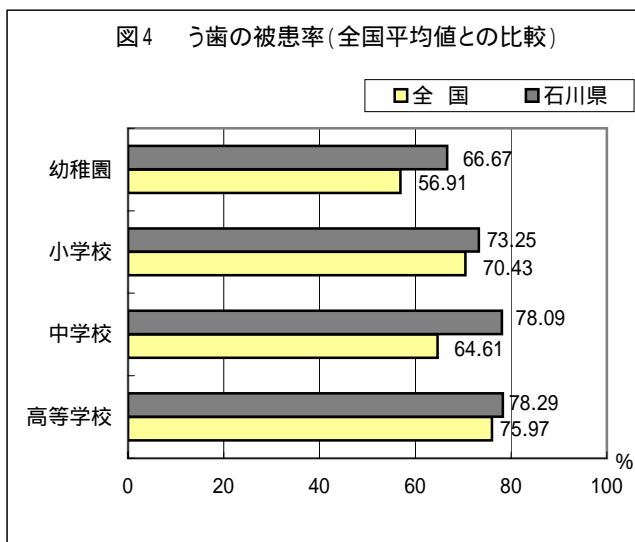


図6 17歳男女平均値の推移

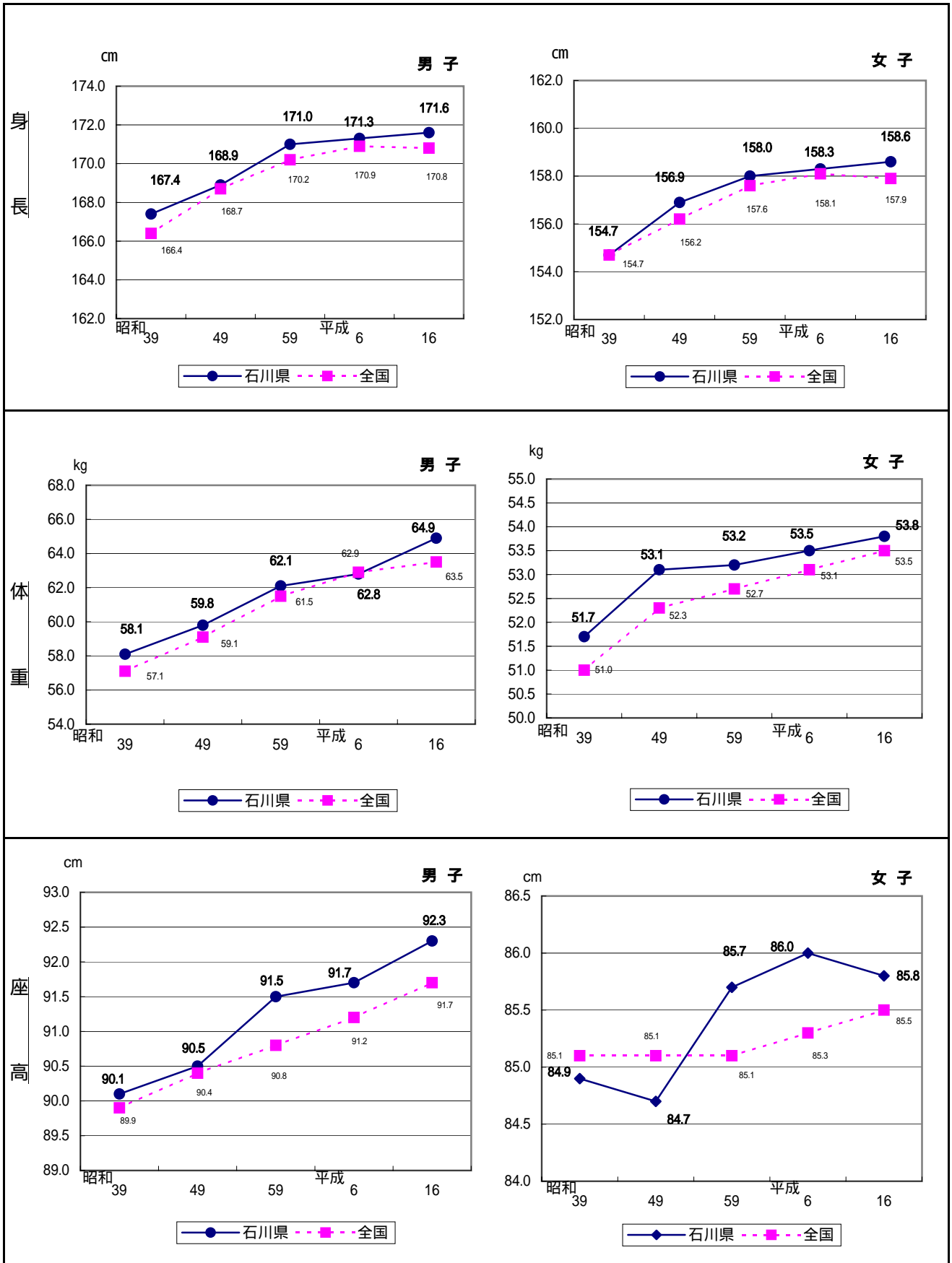
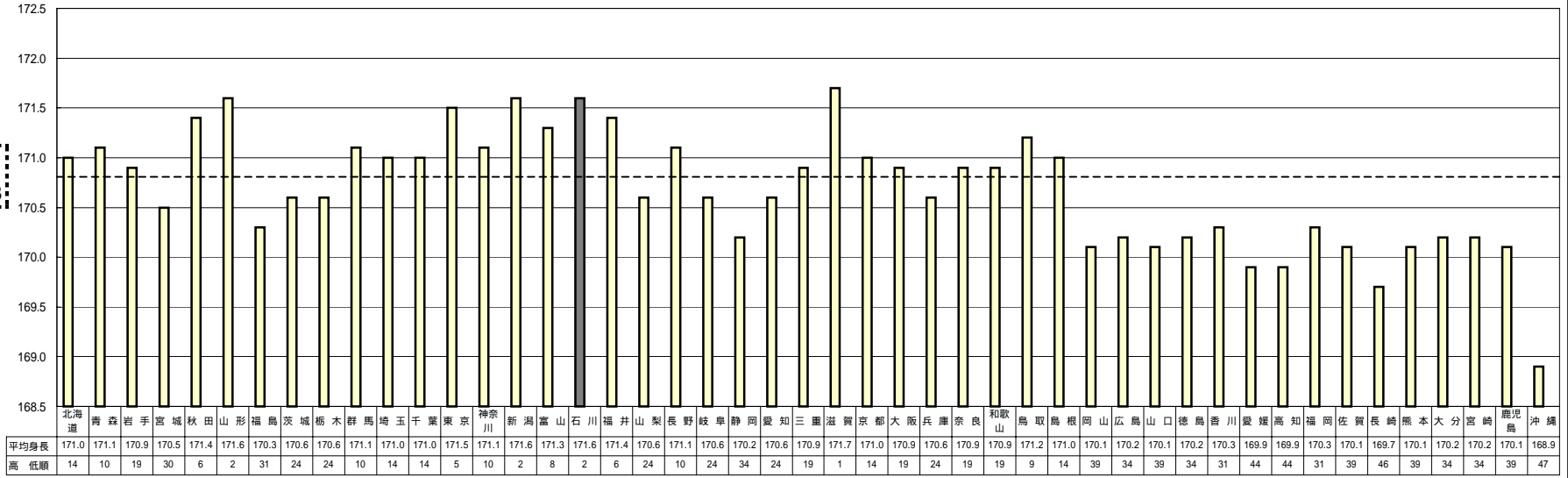


図7 都道府県別17歳の平均身長

単位：cm

男子



女子

